



発行所▶群馬県里親の会（群馬県社会福祉協議会内）〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12 ☎027-255-6034
 発行人▶上原正男 発行日▶2022年（令和4年）3月31日 Email▶satooya@g-shakyo.or.jp

関東ブロック大会の報告

第67回関東甲信越静里親研究協議会 群馬大会



群馬大会実行委員長 上原正男

第67回関東甲信越静里親協議会群馬大会は、令和3年7月18日（日）～31日（土）の日程で配信により行われました。当初計画では、現地開催準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応が必要となり、参加団体の都県市の里親会のご意見を伺い、通常開催が困難と考え、急遽事前収録による動画配信といたしました。

本県開催は3回目となります。「子どもたちの健やかな成長のために日々奮闘している里親と関係者が集い、子育て・子育てについて語りあう場をしたい。児童虐待やDV、子どもの貧困、家族や親子などをめぐる社会問題がますます深刻化し、当たり前が当たり前でない生活が余儀なくされた今だからこそ、子ども達との明るい未来に向かい、何が必要なのか、参加者一人ひとりの思いを存分に話し合いたい。この思いを発信したい」と、実行委員会で話し合い『共に育ちあい 共に明るい未来に向かって——群馬県からの発信2021』と今回の大会テーマを決めました。

参加登録アカウント数341件が記録され

ました。

今回の大会は、参加者にとって会場での里親同士の直接情報交換等話しができませんでしたが、大会は2週間の配信でしたので、参加者の都合のいい時に、会員・家族等で参加する事ができたのではないかと思います。

基調講演は山本真知子氏（大妻女子大学准教授）による演題「子どもの声に耳を傾ける」と題して行われました。

分科会は4分科会に分かれ、第1分科会「親と子の愛着形成」、第2分科会「子どもとのルール作り」、第3分科会「委託解除に向けた子どもへの支援について」、第4分科会「里親サポートについて」と題して情報の発信を行いました。それぞれ子育て方法は100%の解答はなく、試行錯誤です。子ども一人ひとりの養育暦もそれぞれ異なります。里親は研鑽の日々です。

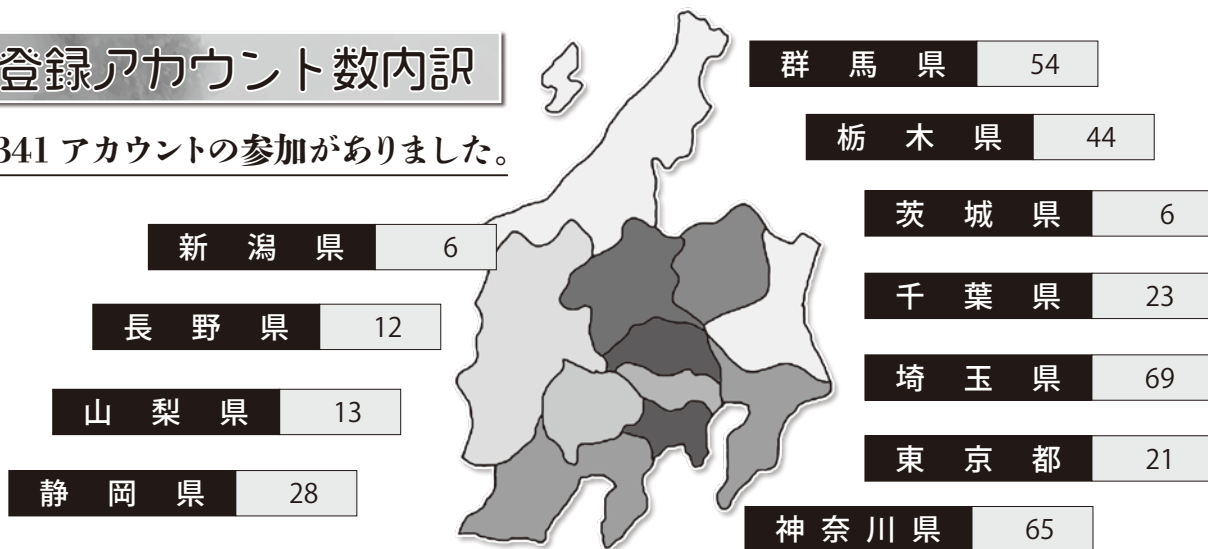


最後に、本大会の開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました助成団体、後援団体の皆様、ご講演・ご意見発表された方々・会員・実行委員会事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

第67回関東甲信越静里親研究協議会の群馬大会はコロナ感染予防に考慮しながら、事前収録による動画配信によって開催されました。以下、その集計結果を報告いたします。

参加登録アカウント数内訳

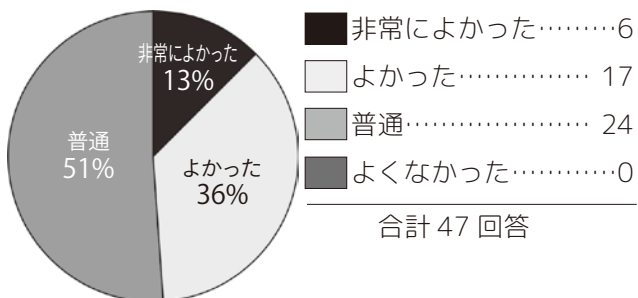
総合計 341 アカウントの参加がありました。



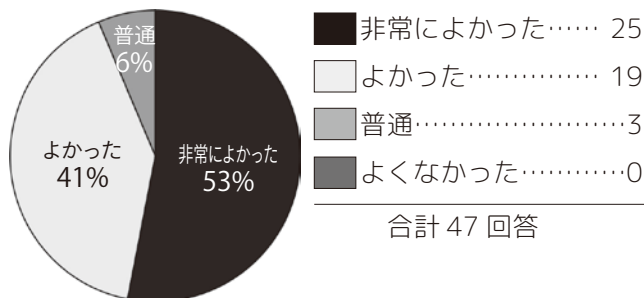
アンケート結果

341 参加登録アカウント数のうち 47 名（回収率 13.8%）の方からお答えをいただきました。ご協力を感謝します。

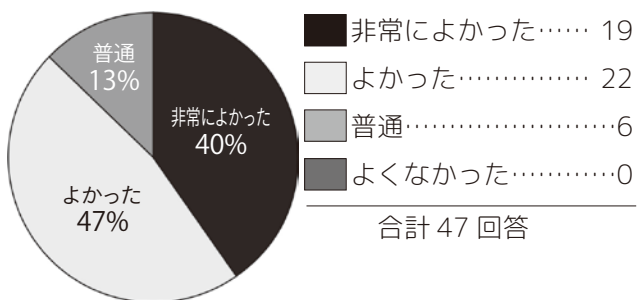
式曲について



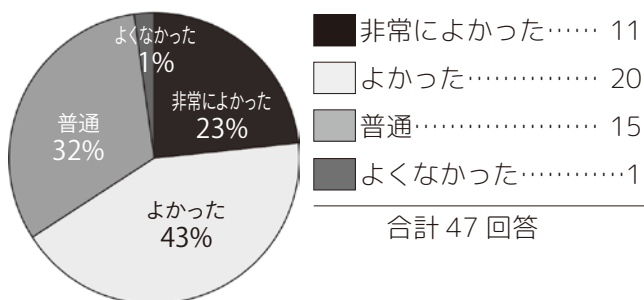
基調講演「子どもの声に目を傾ける」



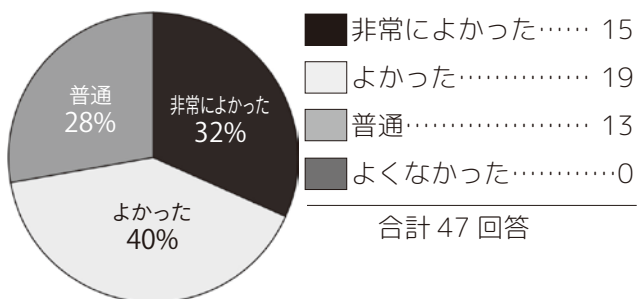
第1分科会「親と子の愛着形成」



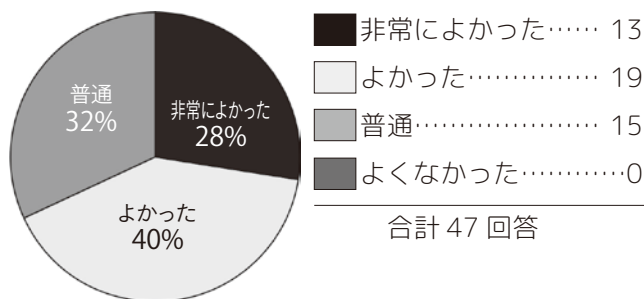
第2分科会「子どものルール作り」



第3分科会「委託解除に向けた子どもへの支援」



第4分科会「里親サポートについて」



大会についての主な感想・意見

<全体>

◎事前収録の閲覧形式は、時間の制約がなく、自分の都合に合わせて視聴できたことは、大変ありがたかったです。

◎「男性の育児」について取り上げて欲しいです。そして里父達に多く参加して欲しいです。

◎話が長い。同じような挨拶が続くので省いてほしい。

◎現地に足を運び、直接皆さんと会って感じる事も大切ですが、オンライン配信でも研修したり、話を聞くことはできました。

◎オンデマンド配信なので、参加者以外の方も気軽に参加できるというメリットがありました。

~~~~~

### <基調講演> 「子どもの声に耳を傾ける」

◎お話がとてもわかりやすく、「実子」の方の視点を教えていただき良い気づきとなりました。

◎里親家庭の実子の立場からの意見を聴く機会は限られているため、思いを知ることができて良かった。支援をする上でも大切な視点だと思う。講師の著書も読み込みたい。

◎子供版のピアサポートがもっと広がればよいと思いました。

~~~~~

<第1分科会> 「親と子の愛着形成」

◎当事者の生きづらさが良くわかるお話でした。

◎内容が分かりやすいだけでなく、会の段取りがテンポよくて集中して視聴した。

◎今まさに自分に足りてないところを教えられたような感じでした。

~~~~~

### <第2分科会> 「子どものルール作り」

◎ルール作りの部分は、それぞれのご家庭でのこれからの実践に向けて取り組みやすいのではないだろうかと思いました。

◎本を紹介しながら大事なポイントを教えてくれたのでためになった。

◎ネット依存の危険を知ることができ、本当に聞いておいてよかったです。

~~~~~

<第3分科会>

「委託解除に向けた子どもへの支援」

◎里親さん、里子さんのお気持ちが生の声として聴けて良かったです。

◎解除後の喪失感などへのサポートが必要だと思いました。

◎困っているということと言える子、素直な気持ちをほきだせるような環境を作りたいと思いました。

~~~~~

### <第4分科会> 「里親のサポートについて」

◎各県市の里親支援状況が聞けてよかったです。

◎第四分科会のピアサポートは、それぞれの里親会が属する自治体のフォスターリング機関の扱いが異なるので、同じレベルで議論するのは難しいと思いました。

◎埼玉県の未委託里親に対する取り組みは、登録里親のうち委託されるのが30%程度の現状では恨みを買うだけのようになります。

~~~~~

第66・67回関東甲信越静里親協議会の会長表彰を本県の里親が代表受領させていただきました。



2021年度 群馬県里親の会 活動紹介

総会

昨年度に引き続きコロナ感染拡大防止のため書面開催となりました。

令和3年度 群馬県里親の会総会議決結果

1) 会員総数 172 (うち外部理事5)

2) 提出会員数 93

里親会会則 第16条4項により、会員の2分の1以上の書面表決書をもって本総会が成立していることを確認いたしました。

3) 議案

第1号議案 平成31・令和元年度事業報告

賛成93、反対0

第2号議案 平成31・令和元年度決算報告

賛成92、無記入1

第3号議案 会則改正 (案)

賛成93、反対0

第4号議案 令和3年度事業計画 (案)

賛成93、反対0

第4号議案 令和3年度予算 (案)

賛成93、反対0

第6号議案 令和3年度役員・委員 (案)

賛成93、反対0

4) 結果

上記の通り、すべての議案について里親会会則第16条5項により2分の1以上の賛成をもって、原案通り承認されましたことをご報告いたします。

会員向け研修会

「子どもと一緒に子育てを考えてみた! 開催日4月24日 参加34名
~ナイス!な親プロジェクトを通して見えたこと~」(講師:斎藤直巨さん)

「研修会に参加して」 五十嵐・記

昨今のコロナ渦の中、2021年4月24日 斎藤直巨さん(東京都の里親さん)の研修会に、Zoomで参加させていただきました。

研修会に先立ち、群馬県里親の会主催での「Zoomでミーティングへの参加方法」に参加させていただき、「ミーティングID、パスコードって何?、マイク、ビデオのアイコンどうすればいい...?」など勉強させていただきました。この研修会は、二度目のZoom利用での参加だったと思います。操作方法で最初は少し戸惑いましたが、慣れると会場に出向かなくても良いので時間的なロスも無くなり、講演は大変勉強になりました。

子育てで時間制限のある里親にとって遠方での研修会会場参加は難しいという話を聞いてい

ましたので、Zoomで研修会に参加する方法が取り入れられたのは大きなメリットだと思います。

今回の講演では、地域の里親たちとのつながりの大切さや地域の子供たちと一緒に子育てを考えることの必要性、また虐待による影響など様々な問題を抱え、社会的養育を必要とする子供たちの話に耳を傾けて、専門家と共に子供を大切に思う里親の子育てについて考えていく大切さを感じました。



第67回関東甲信越静里親協議会群馬大会 事前収録

収録日 6月14日
参加46名(関係者)

第67回関東甲信越静里親協議会群馬大会はコロナ感染拡大防止のため、事前収録したものを7月18日から31日まで配信しました。

ピアサポート事業

ピアサポート事業とは里親同士(ピア)の支え合い、近隣の里親同士の情報交換や、互助による支援体制の構築を目的とした事業です。

傾聴研修を受講したサポート里親10名を中心にグループ活動を開催しました。

- 6月30日 ピアサポート里親委嘱式及び第1回傾聴研修
- 9月7日 第1回サポート里親会議(コロナ感染状況悪化のため活動報告書配布)
- 10月1日 第2回傾聴研修会
- 11月17日 第2回サポート里親会議
- 12月15日 第3回サポート里親会議
- 2月1日 第4回サポート里親会議
- 2月22日 第5回サポート里親会議

第1回
おしゃべりの会

「知っているようで知らない。でも知りたい!お金の話」

開催日 11月26日 参加 25名

第1回「おしゃべりの会」に参加して

杉本 雅子

今回のテーマは「措置や子育てに必要なお金について」でしたので、現在、未委託の私には「まだ先の話かな」と思いました。しかし、委託になった時のことを想定して参加してみるのも良いのかなと考え直し、思い切って参加してみました。

配付された資料(令和2年度児童保護措置費単価表・里親)を見て驚きました。こんなに詳細に明記されているんだ!と。考えてみれば至極真っ当なことですが……。しかし、衣食住を共にし教育をしていく中で、明記されていない出来事が数多くあることを知りました。

話し合いは3~4人で1グループをつくり、1グループ20分の話し合いをした後に発表し、別のグループをつくる……という形式で行われました。

「確定申告用に里子に関する生活費等はすべて領収書(レシート)をとり、家計簿につけておく」と良い。「里子を迎えるにあたり、乗車人数の多い車に買い換える費用は何所得?」等々。税に関する話もあり、単に子どもを預かるということではない(このことは重々承知をしていますが)、改めて社会的責任の重さを痛感しました。

話し合いの中で、今回のテーマであるお金以外に、家庭内でのペットと里子の関係についての意見交換もありました。実子であっても兄弟姉妹間で嫉妬という感情があるように、ペットにおいてもそれに近い感情があるようで、事故が起きないように、その点については里親が細心の注意を払いつつ、ペットと里子、里親が楽しく共生できるように環境を整えていくことが大事だと思いました。

今回の会は、私にとってお金に関する知識を得ることができ、そしていかに里親が里子のことを考えて最善を尽くしているのかを知るきっかけになり、参加をして本当に良かったと思っています。

これで、いつ委託がきてもバッチリ!とはまだまだいきませんが、その時になっても慌てない状態でいたいと思いました。ありがとうございました。



第2回 おしゃべりの会

「知っているようで知らない？ホントの気持ち～里子の気持ち
を考える」
開催日 12月9日 参加 zoom19名、会場 16名

第2回「おしゃべりの会」に参加して

(匿名)

今回の「おしゃべりの会」が開催された時点では、まもなく措置解除になる4歳の男の子を養育していました。約2年間、一緒に生活



ゲストスピーカーの坂本歩さん
当日は東京から zoom で参加

してきた中で、里子がどんな思いを持っていたのかを知りたくて、参加させていただきました。

実際に、里子家庭出身の坂本さんのお話を聞き、活動されていることに感動しました。坂本さんの活動には興味深いものがたくさんありました。坂本さんのお話をきっかけに、里親・里子ことをもっと知りたいと思い、関連本を購入して読んだりし

ています。そして、これからも養育に関わっていきたくとあらためて思いました。

その後、里子は措置解除になりました。今は、里子の幸せを祈るばかりです。



第3回 おしゃべりの会

「知っているようで知らない？学校や行政・医療機関との
上手な関係の作り方」
開催日 1月26日 参加 16名

第3回「おしゃべりの会」に参加して

本井 栄子

私は20年前、東京都の里親さんや埼玉県の里親さんに、里子が学校で作成したアルバムを見せてもらいました。そのアルバムを見たことで、作品に必要な写真やおもちゃなどの用意と、子どもと一緒に生いたちに向き合う心の準備ができたのを覚えています。

もう成人した子どもですが、小学校2年生の生いたちの授業で作成したアルバムを持って参加しました。学校との関係はそれぞれ大変でしたが、過ぎてしまうと良い思い出で、一緒に乗り越えたから今の良

い親子関係があるのかも知れません。

さて、里親さん同士との繋がりがとても大切で、おしゃべりの会で話を聞いてもらっただけで心が軽くなったのを覚えています。地区を越えて里親さんと出会えたり、おしゃべりの会で今回初めて参加した方もお話ができたり、とても楽しく過ごせて良かったと思いました。



「おしゃべりの会」の良いところは、里親さんだけでなく、行政、児相、施設の支援員さんも参加してくれることで、知りたいことに答えてくれることでしょうか。たとえば、お金のことは話しづらくありませんか。おしゃべりの会では行政や児相

が答えてくれるので聞きやすいと思うのです。まだ参加したことがない里親さん！ぜひ参加してみませんか？ コロナ禍で参加するのも大変だと思いますが、1人で子育てするのではなく、里親仲間を作って情報交換しながら楽しい子育てをしましょう。

おしゃべりの会の準備にあたり、事務局、研修委員、三役の方々に感謝しながら、心の中は家に帰って子育てに頑張ろうと思いつつながら帰路に着きました。また皆さまに会えるおしゃべりの会を楽しみにしています。

One Love チラシ配布

全国一斉・里親制度啓発キャンペーンにともない、`One Love` のチラシを高崎駅東西のデッキにて配付しました。(配付日 10月4日)

毎年10月は厚生労働省でも「里親月間」と定めて啓発活動に取り組んでいますが、それに伴い群馬県里親の会でも啓発活動として、チラシ配布を行ってきました。

新米里親2年目(当時)の私も、お役に立ちたいと思い参加してみました。下の写真のチラシをはじめ群馬県独自の資料をセットにした配布物を、高崎駅の東と西にあるデッキで配りました。「あっ新聞広告で見たよ」とか「テレビでCMやってるよね」と言ってくれる方もあって、コロナ禍にありながらも、意外と受け



西日の厳しい`西口`と日陰で穏やかな`東口`とで交代しながらの配付だった。



取ってくださる方が多いな～と感じました。

「里親家庭」が圧倒的に少ないという現状を知ると、この配布活動で1軒でも里親さんが増えてほしいなと願うばかりです。

出不精の私としては、このような活動に勇気を出して(出すほどのものではない?)参加して良かったなと思います。同じ里親仲間との交流や励ましがあって、汗ばむ午後でしたが、すがすがしい1日でした。(記・藤原幸生)



皆様のご支援に感謝いたします。

●民間団体・機関

- 群馬県共同募金会様
- 群馬県社会福祉協議会様
- 公益財団法人 上毛新聞厚生福祉事業団様
- 全国里親会様
- 太陽誘電(株)、太陽誘電労働組合様

- テレビ朝日福祉文化事業団様
- タイガーマスク運動様
- 株式会社ダイナム様
- 株式会社東部オート様
- 日本子ども支援協会様
- (公財)日本舞台芸術振興会(東京バレエ団)様

●賛助会員12名

●個人寄付者6名



今日のお題は？

里子たちの……

措置解除後の自立

編集会議の朝、唐突に読売新聞オンラインに、施設・里親家庭で暮らす子どもらの支援、「18歳上限」撤廃へ…自立可能か個別判断という記事が掲載された。

内容は、厚生労働省は虐待や貧困などで保護され、児童養護施設や里親の家庭で暮らす子どもや若者が支援を受けられる年齢の制限を撤廃する方針を固めた。現在は原則18歳、最長でも22歳で自立を求められるが、年齢ではなく自立可能かどうかで判断し、大人向けの支援に引き継ぐまで継続的にサポートを受けられるようにする。開会中の通常国会に児童福祉法改正案を提出する…というものであった。詳細はまだまだわからないところはあるが、3月4日には児童福祉法改正案が閣議決定されたので、自立に向けての体制作りを、今後国会においておおいに議論してもらいたい。

養育家庭では措置解除後も里親家庭で暮らし、大学や職場に通う子たちに出会う、また、ことあるごとに相談や悩み事で帰って来るといふ話も良く聞かすが、音信不通になっている子もいる。児童養護施設などで暮らした子が、進学や就職で退所したあとの実態を調べるため、厚生労働省が全国調査を行った結果、施設などのサポートを受けていないのは5人に1人に上ることがわかった。施設などで暮らす子たちにとって、自立の支えになることなのだろう。

児童養護施設の生活を中心に展開された「ファイトソング」というドラマを視ていて、こんな荒唐無稽な話しはないと思って視ていたが、ニューモ

デル今後は社会的養護のトレンドになっていくのかもしれない。

本会では里子の自立支援として、「おしゃべり通信」にも掲載したが、運転免許取得助成事業の配分を担い毎年5・6名に15万円を助成している。群馬で暮らすには自動車の運転は不可欠自立の第一歩として喜ばれている。

前橋ではタイガーマスク運動支援プロジェクトで自立支度金20万円+免許の取得費を支援してもらっている。タイガーマスク運動に感化された伊勢崎の里親子が、臂伊勢崎市長や市会議員に働きかけ、伊勢崎でも前橋に倣い支援したいと動いている。山本前橋市長はご自身のブログで全県下全国に広げるべきだと述べている。

また、高校3年生を対象に自立支援関係の助成などの情報を提供している。今年は山田昇記念財団よりリサイクル家電の提供や東部オートから自動車をメンテナンスを含め支援してもらえることになった。

今後も支援の輪が広がることを願っているが、まこHOUSEに社会的養護を巢立った仲間を迎え入れている山本昌子さんは、我が家は「みんなの心の居場所であることを目指します」と述べている。当事者の里子たちが集まり自由に語り合える場ができ、そのユースのお子さんたちの声に耳を傾け、手厳しいことを言われても真摯に受け止め、共に育ちあい共に明るい未来へ向かって2割の子を生まないような心の支援が大切だ。

【編集後記】 中2の娘が唐突に「お父さん夏休みはどっか旅行、行くん？」と尋ねてきた。コロナ禍の中での切実な思いだったのだろう。一日も早く平穏な生活が戻り、マスクのない笑顔一杯の誌面を届けたいと渴望している。

群馬県里親の会 事務局

〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12
(群馬県社会福祉協議会内)

TEL: 027-255-6034 FAX: 027-255-6173

E-mail: satooya@g-shakyo.or.jp (荒川)
satooya2@g-shakyo.or.jp (岩上) (題字: 上原正男)